

平成25年度第1回 経営学教育FD/ICT活用研究委員会 議事概要

- I. 日時 : 平成25年11月1日(金) 10:00~12:00
II. 場所 : 私立大学情報教育協会 事務局 会議室
III. 出席者: 佐々木委員長 安田委員 宮林委員 岩井委員 雑賀委員 日置委員
(事務局) 井端事務局長、森下、松本

IV. 資料

- 資料① 平成25年度経営学教育FD/ICT活用研究委員会の活動計画
資料②-1 経営学教育における教育改善モデルについてアンケートの内容
資料②-2 経営学教育における教育改善モデルについてアンケート集計結果
参考1 学士課程教育の現状と課題に関するアンケート調査(平成25年8月中央教育審議会資料)
参考2 これからの大学教育等の在り方について(平成25年5月教育再生実行会議第三次提言資料)
参考3 教育振興基本計画(平成25年6月閣議決定資料)
参考4 学びの革命世界が舞台(新聞情報)
参考5 誰でも無料ネット講義(新聞情報)
参考6 大学の卒業認定厳しく(新聞情報)
その他 平成25年度委員名簿、平成25年度公益社団法人私立大学情報教育協会事業計画書

V. 議事内容

1. 平成25年度の経営学教育FD/ICT活用研究委員会の活動計画について

平成25年度は、能動的学修の実現に向け、ICTの活用を含めた効果的な学修の取り組み方策、教員の教育指導の開発について今後一層研究を進めるため、サイバーFD研究員の先生方へのアンケートを踏まえた見直しを2回の委員会で行う。その上で、平成26年度に向けた教育改善モデルの一層の充実・改善及び実現に向けた研究の意識合わせを行う。

2. 教育改善モデルのアンケートの検討について

資料②-1によりサイバーFD研究員の先生からいただいた15件の意見について内容を検討した。

3. アンケートの主な意見

(1) 経営学教育における学士力の考察の到達目標、到達度
概ね妥当であり、賛同するとの結果が得られた。

主な意見と検討内容(意見は①~⑥、検討内容は*で示す)

① 到達目標に人的資源管理の側面を入れるべきでないか。

* 到達目標3のコア・カリキュラムのイメージに「人的資源」を入れるよう見直しする。

② 実学という曖昧な表現で曖昧模糊となっている。実学は現実を相手に、実践する方法を学び気力を養うことを目的とする。まずは問題(潜在的なものも含めて)を把握し、対応策を結果と外れた場合の新たな対応策を構築し、実践できるような鍛錬を目指すべきである。「どうすれば経営がうまくいくか」などの正解はない。意思決定の場面を創出してそこでの実践力を培うような教育が必要だと思う。評論家のようなものばかりを育てる教育が多いように感じている。

* 工夫すべき点があるので、今後の課題。

③ 到達目標の1の「組織の社会的責任の理解」は、最後の到達目標4にした方がよいのではないか。

* 到達目標1「企業の社会的責任の理解」は、あえて最初に掲げた。この順番については評価する意見も多くいただいている。

「組織の社会的責任」については、「企業と社会」「社会における企業の役割」等、存在意義や存在価値などの言葉で表現した方がよいのではないかと意見もあり、表現を見直しする。

- ④ 能力に大きな差異のある学生達に対してこのような到達目標および到達度を一律に確保することは可能かどうか。その意味では、どうしても到達すべきこと、到達することが好ましいこと、能力がある場合はこのように広げて考えることが好ましいといった段階分が現実には必要ではないか。
- * 5年先を見据え、経営学を学んだ学生には目指してほしい目標として掲げたが、今後も課題として検討していく。
- ⑤ 経営学は組織の持続可能性維持・拡大のための学問なので、これの理解と実現を入れるべきでないか。
- * 全体の中で提案している。
- ⑥ 企業、非営利組織、行政組織など区別すべき。
- * 到達目標1「企業をはじめとする組織」の「組織」には、非営利組織や公共組織等含み、企業と区別して提案している。

(2) 教育改善モデル

肯定的な意見が多いが、実施していくための教員の教育力の課題、FDの必要性、意志決定力をつけさせる授業改善の取り組みなど、今後の課題に対する意見もいただいたが、特に見直し等の必要は無かった。

(3) 専門性、教育力、FD活動と課題

概ね賛同するとの意見がほとんどであったが、教員の現場実務体験の必要性、教育改善の成果を客観的に評価する仕組みの構築やファシリテーション研修、FDなどを強化することなどの意見をいただいたが、特に見直し等の必要は無かった。

4. 次回までの課題

- ① 見なおしを検討する部分については次回までの課題とし、各委員に見直し案を作成してもらおう。
- ② アンケートを踏まえた教育改善モデルの実現に向けた課題について、現在の大学教育をとりまく環境を踏まえ、事例や資料等まとめてもらう。

5. 社会の動きなどを踏まえた能動的学修等の動向の意識合わせについて

参考1 学士課程教育の現状と課題に関するアンケート調査、参考2 これからの大学教育等の在り方について、参考3 教育振興基本計画、参考4 学びの革命世界が舞台（新聞情報）、参考5 誰でも無料ネット講義（新聞情報）、参考6 大学の卒業認定厳しく（新聞情報）等を報告し、新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて、国・社会から様々な提言が行われており、大学に改革行動が求められていることや、能動的な学びを実現する授業改善の取り組み、全学的な教学マネジメントの課題と対策、教員の教育力向上の課題、情報通信技術（ICT）を活用した授業改善への取り組みと課題等について意識合わせを行った。

昨年までの5年間にわたり研究を進めた「大学教育への提言」未知の時代を切り拓く教育とICT活用で提案した内容が学士課程教育の現状と課題に関するアンケート調査の結果や内閣府、中央教育審議会等の方向と一致しており、このことを踏まえて平成26年度にむけた教育改善モデルの一層の充実・改善及び実現に向けた取り組みを研究することを確認した。

6. 次回の委員会

日時：平成26年1月10日（金）または平成26年1月24日（金） 14：00～16：00

場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室